

# 秋の三者総会議案書

2004 年度三者事務局

2003 年 9 月 11 日

## 目次

1	2003 年度夏の学校決算報告	1
2	研究会報告と D.C. アブストラクトについて	6
3	決算報告 (2003 年度三者準備校)	6
3.1	準備校費用	6
3.2	夏の学校費用	7
4	2003 年度夏の学校活動報告	8
4.1	夏の学校	8
4.2	夏の学校終了後	9
5	夏の学校運営に関する確認事項など	9
5.1	確認事項	9
5.2	来年度以降の夏の学校に向けて	10
6	アンケート結果・感想	11
6.1	アンケート結果中間報告	11
6.2	感想	11
7	2004 年度夏の学校予算案 [三者センター校]	13
7.1	収入予定	13
7.2	支出予定: 概要	13
7.3	支出予定: 詳細	13
7.3.1	三者センター校 (東京大学)	13
7.3.2	三者準備校 (金沢大学)	14
7.3.3	三者事務局 (東北大学)	14
7.3.4	三者 ML・HP 管理校 (大阪市立大学)	14
7.3.5	素粒子論パート準備校 (広島大学)	14
7.3.6	原子核パート準備校 (大阪大学)	14
7.4	緒連絡	14
7.5	三者総会出席費用について	15
7.5.1	議案の説明	15
8	2004 年度三者準備校 (金沢大学)	15
8.1	2004 年度夏の学校の開催地、開催時期についての報告	15

# 1 2003 年度夏の学校決算報告

2003 年度三者センター校  
文責：表 寿憲（筑波大学）

この決算報告は9月1日現在のものである。現時点では以下に挙げる役職校の決算がまだ終了していないことと、学生旅費補助額が決定していないため、部分的に不完全な報告となることを了承して頂きたい。

- 三者センター校
- 三者準備校

しかし、ほとんどの収支の内訳の金額が確定していることから、これらの役職校の決算と学生旅費補助が確定した最終的な決算報告は、後日 YONUPA-ML で報告する。

また、注意として、

- 印による注釈は、各役職校・WG に対する三者センター校による注釈を表す。
- \*印による注釈は各役職校・WG による注釈を表す。

## 収入予定

内訳	収入予定
前年度繰越金	1,446,816
基研（講師旅費）	505,490
基研（印刷費）	49,507
素G	450,000
参加費	966,000
合計	3,417,813

基研から承認されている講師旅費の金額は 500,000 円である。承認されている金額を越えて援助を得ているのは、旅費手続き上の理由である。

参加費の合計金額は、一般参加者 317 名と参加費を支払われた Talker5 名の合計 322 名の金額である。

## 支出予定

内訳	決算予定額
夏の学校運営費合計	464,518
各三者役職校合計	417,798
各パート役職校合計	39,900
各 WG 合計	6,820
講師旅費	161,870
ポスター印刷費	49,507
学生旅費補助	1,295,102
次年度繰越金	1,446,816
合計	3,417,813

学生旅費補助額は9月1日現在、確定していない。表にある学生旅費補助の金額は繰越金を使わない場合のものである。

参考までに、昨年度の学生旅費補助は 1,667,140 円である。

各役職校・WG全体の支出予定

役職校	今年度予算額	決算予定額
三者センター校	31,100	24,285
三者準備校	391,700	393,513
三者事務局	1,000	0
三者ML・HP校	0	0
素粒子パート事務局	0	0
素粒子パート準備校	27,403	32,921
原子核パートセンター校	0	0
原子核パート準備校	9,000	6,349
高エネルギーパート準備校	5,000	630
WG 掲示板	6,715	6,820
セクハラ対策 WG	2,000	0
運営 WG	0	0
合計	473,918	464,518

名簿校は会計が独立しているため、ここでの収支報告には含めていない。

今年度は例年よりも予算申請額が少ない役職校が多く、各役職校とも予算案の段階で経費削減の努力をして頂いていたが、決算ではさらに、予算額よりも少ない決算額となっている役職が多い傾向があった。

各三者役職校の支出

● 三者センター校

申請項目	予算申請額	決算額
振込手数料	1,700	2,315
旅費	29,400	21,970
合計	31,100	24,285

\* 銀行に口座を持っている役職校が多かったことから、役職校に経費を振り込むための振込み手数料が予定金額を越えた。

● 三者準備校

申請項目	予算申請額	決算予定額
下見・交通費	12,200	19,320
会場等のリース代	183,500	199,950
コピー代	110,000	54,102
文具代	15,000	24,861
通信費	16,000	20,280
郵送料	25,000	45,000
払出し手数料	30,000	30,000
合計	391,700	393,513

● 三者事務局

申請項目	予算申請額	決算額
切手代	500	0
振込手数料	500	0
合計	1,000	0

- 三者 ML・HP 校  
今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

#### 各パート 役職校の支出

- 素粒子パート事務局  
今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

- 素粒子パート準備校

申請項目	予算申請額	内訳	決算額
録音関係費		DV テープ 80 分 3 本パック × 3	8,127
		オーディオテープ 120 分 × 13	1,522
		オーディオテープ 150 分 × 1	262
		VHS テープ 120 分 × 9	945
(小計)	11,655		<b>10,856</b>
通信関係費		ビデオテープ等送料 × 2	1,480
		延長コード送料	1,060
(小計)	1,900		<b>2,540</b>
消耗品代		サインペン	105
		コピー代	1,460
		講師用飲み物	300
		CD ケース × 7	735
(小計)	210		<b>2,600</b>
研究会費		セロハンテープ	105
		布ガムテープ × 6	630
		色上質紙 3 枚入り × 8	840
(小計)	1,638		<b>1,575</b>
PD 謝礼金	12,000	参加費 3,070 円分 × 5	<b>15,350</b>
合計	27,403		<b>32,921</b>

\* PD 謝礼金に関しては、人数が 4 人から 5 人に増えたため 3,000 円程赤字になった。

\* 積極的に 100 円ショップを使い、経費削減に努めた。

- 原子核パートセンター校  
今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

原子核パートセンター校の予算については、夏の学校の三者総会で印刷費 2,000 円の申請が夏の学校開催中になされたと報告したが、領収書が無く、確認できる資料もないことから、原子核パートセンター校から自主的に予算申請を取り下げられた。三者センター校の方には、夏の学校の時点で領収書や確認のための資料が無い事を知らせて頂いていたが、夏の学校の三者総会の時点では支給するように対応しようと考えていたため、夏の学校の三者総会では上記のように報告した。

- 原子核パート準備校

申請項目	予算申請額	内訳	決算額
文具代		糊、テープ代	472
		模造紙代	840
(小計)	3,000		<b>1,312</b>
コピー代		コピー用紙代	367
		コピー代	3,650
(小計)	5,000		<b>4,017</b>
郵送代	1,000	切手代	<b>1,020</b>
合計	9,000		<b>6,349</b>

\* 郵送代は当初、トラペの郵送用として申請されていたが、トラペを郵送する必要がなくなり、「原子核研究」への原稿の投稿用として内訳が変更されている。

- 高エネルギーパート準備校

申請項目	予算申請額	内訳	決算額
文具代	5,000	CD-RW 代	<b>630</b>
合計	5,000		<b>630</b>

## 各 WG の支出

- WG 掲示板

申請項目	予算申請額	決算額
掲示板レンタル料	6,400	<b>6,400</b>
振り込み手数料	315	<b>420</b>
合計	6,715	<b>6,820</b>

- セクハラ対策 WG

申請項目	予算申請額	決算額
お菓子・お茶代	2,000	<b>0</b>
合計	2,000	<b>0</b>

\* 2003 年度の夏の学校の会場では飲食禁止であり、茶話会用のお菓子・お茶は購入しなかったため、申請した予算は使わなかった。

- 運営 WG

今年度は予算申請せず。

申請項目	予算申請額	決算額
合計	0	0

## 会計監査の方針について

各役職校・WGのうち、申請した予算を使用した役職校・WGからは、領収書の提出をして頂いた。これらの領収書に従って監査を行った。監査としては、

- 決算報告の内容と領収書の内容の比較
- 領収書の金額が内訳に対して大きすぎないかどうか

を主にいき、不自然な点が無い限り各役職の仕事の詳細には立ち入らないこととした。また、領収書が無い場合は、確認できる書類があれば予算申請額は支給する方針を取った。

各役職校・WGから提出して頂いた領収書を公開する予定は無いが、領収書を見たいという要求がある場合には、何らかの形で対応する。(ただし、どの程度の間、領収書を保管することが可能であるかは不明である。)

会計監査の方法の詳細については、役職校メーリングリスト sansha-ctr のメール [sansha -ctr 117] または、2003年度三者センター校のホームページ

<http://vodka.ph.tsukuba.ac.jp/~omote/3center.html>

を参照願います。

## 2 研究会報告とD.C.アブストラクトについて

D.C.アブストラクトは、夏の学校での議論の材料と、各研究室のセミナーの講師の選考の際の資料として、1999年から編集されています。2002年度からは、「素粒子論研究」へも投稿されるようになりました。

2003年度のD.C.アブストラクトへの投稿は13名(内訳は素粒子7名、原子核6名)です。これに比べ2002年度の投稿は27名(素粒子14名、原子核13名)と、前年度に比べ、投稿が半数しかありません。

来年度以降、投稿数が減り続けるかは不明ですが、少なくとも、若手の数や夏の学校の参加者に較べても、この投稿数では、目的が十分に果たされていないのではないかという疑問がわいてきます。

そこで、「素粒子論研究」へ投稿する前に、D.C.アブストラクトの今後のあり方についての議論が必要ではないかと考えます。

まず、一つは、夏の学校で発表を行う人が、D.C.アブストラクトへの原稿も書かなければならないことの手間から、投稿が減っているのではないかと考えられます。その解決として、D.C.アブストラクトの投稿を素粒子パートや原子核パートに委託して、投稿の窓口を統一するやりかたが考えられます。

他に考慮すべき点として、「素粒子論研究」には、D.C.アブストラクト集の他に研究会報告として素粒子パートの講義ノートが投稿されていますが、しかし、講義ノートは完成する時期が遅く、研究会報告としては、素粒子パートでの日程や研究発表内容を載せた方がよいのではないかと考えられます。

れます。ちなみに、原子核パートでは「原子核研究」の方に研究会報告が投稿されています。

もし、研究会報告の内容を変えるのであれば、D.C. アブストラクトの内容が研究会報告と被ってしまうので、夏の学校とは切り離れた形で行った方が良いでしょう。

そこでもう一つの案として、D.C. アブストラクトのあり方を変えて、若手の研究紹介冊子のような体裁にするというのは如何でしょうか。募集時期を、年度の始まる4月等にずらして、名簿の更新の様に、各研究室毎に原稿を集めてもらうような形を取ります。実際に行うとすると、原稿の募集等に色々な手間が掛かることになるとは思いますが、若手の研究交流の手段として有効な方法になるのでしょうか。

以上が2003年度センター校内で話し合った内容です。  
皆様の御意見をお聞かせください。

### 3 決算報告(2003年度三者準備校)

文責:金森 逸作\*(北海道大学)

#### 3.1 準備校費用

8月31日現在の決算です。とくに註記がないものは確定しています。

収入

内訳	予算	決算
センター校から	384,700	384,700
合計	<b>384,700</b>	384,700

支出が確定後、差額がセンター校から入金(あるいは返金)される予定。

支出

内訳	予算	決算
会場等のリース代	183,500	199,950
コピー代	110,000	54,102
文具代	15,000	24,861
下見交通費	5,200	19,320
通信費	16,000	20,280
郵送料 <sup>1)</sup>	25,000	45,000
払い出し手数料 <sup>2)</sup>	30,000	30,000
合計	<b>384,700</b>	<b>393,513</b>

1) 8月27日現在確定していない。しかし、ポスターを確実にかつ迅速に届けるために各研究室宛に発送したため、予算を大幅に越えることは確実である。

2) 8月27日現在確定していないため、予算の金額を暫定的に用いた。

- 会場等のリース代は、講義室等をいくつか追加で確保したために予算を越えた。追加した部屋は、原子核パートの講義室 × 1(19日の夜に研究会を追加したため)、高エネパートの講義室 × 1(準備校が22日午後の部屋を確保するのを忘れていた)、宿泊室 × 5(女性用の浴室として)である。
- コピー代は、一部をコピー機ではなく印刷機を用いて印刷したため、予算より経費を節約できた。

\*kanamori@particle.sci.hokudai.ac.jp

- 文具代は、参加者が例年より大幅に増えたためにネームプレートを大量に買い足す必要が生じたこと、予想以上に消耗しているものが多かったことの2点により予算を越えてしまった。
- 下見交通費は、追加予算処置を申請した後にさらに会場での打ち合わせの必要が生じたため、予算額より多くなった。
- 通信費は追加予算申請時に最も安価であった携帯電話が旧モデルであり、購入時には入手できなくなっていた。

残金

$$(\text{収入}) - (\text{支出}) = - 8,813$$

現時点では、8,813 円の赤字になる見込み。この赤字の分は後でセンター校に申請致す。

### 3.2 夏の学校費用

確定してた決算です。

収入

項目	金額	備考
参加者宿泊費	1,309,850	
講師宿泊費	30,100	
食券代	1,656,350	
懇親会費	582,500	2,500 円 × 235 名
余剰振込金	600	
合計	<b>3,579,400</b>	

支出

項目	金額	備考
宿泊費	1,339,950	
食券代	1,544,480	
食券代集めすぎ分の返金	103,620	誤った額で食券代を集めたため 少なく頼んだ食券が 14 食分あったため
食券不足分の返金	7,880	
食券キャンセル分の返金	1,040	
懇親会費用	580,000	
余剰振込金の返金	600	
合計	<b>3,577,570</b>	

残高

$$(\text{収入}) - (\text{支出}) = 1,830$$

この残高は参加費とともにセンター校に渡す予定。

食券の数を誤って業者に頼んだため、食券代だけでは 670 円の赤字。懇親会費用は端数を業者が値引きしてくれたため、懇親会費用だけでは 2,500 円の黒字。差引 1,830 円の黒字である。

参加費

今年度の参加者は一般参加者 317 名（うち当日受付 6 名）、レピュートーカー等が 9 名、講師が 9 名であった。参加費は一般参加者と、レピュートーカー 5 名の、計 322 名から、一人 3,000 円を徴収した。したがって

$$3,000 \times 322 = 966,000(\text{円})$$



をセンター校に渡すことになっている。

なお、参加費を払ったレビュートーカーの人数が 9 名ではなく 5 名であるのは、各パート準備校の対応の違いによる。今回参加費を頂いたレビュートーカーには、謝金という形で同額がパート準備校から支払われることになっているはずである。

## 4 2003 年度夏の学校活動報告

文責:下野 祐典<sup>†</sup>(北海道大学)

夏の学校開催までの活動報告は、2003 年度夏の学校総会の議案書を参照。以下に夏の学校が終了して、確定した分を載せておく。

### 4.1 夏の学校

参加人数 総数:326 人 (一般参加者:317 人、Talker:9 人) 内訳は以下の通り。

パート別 : 素粒子 207 人, 原子核 94 人, 高エネルギー 25 人  
男女比 : 男 293 人, 女 33 人  
学年比 : M1 161 人, M2 75 人, D1 41 人, D2 26 人, D3 7 人, その他 16 人  
宿泊者数 : 269 人 (男 243 人, 女 26 人)  
当日参加者 : 6 人

まだ詳しい解析はしていないが、例年と比べて高学年 (M2 以上) の参加者が多かったようである。また、パート別に見ると例年と比べて素粒子パートの参加者数が大きく増え、逆に高エネルギーパートが減ったように思える。開催時期や開催地、昨年度の夏の学校の様子などが大きく影響しているのかも知れない。アンケート結果などを見て、今後詳しい解析をしたい。

決算 § 3 を参照

### 4.2 夏の学校終了後

夏の学校終了後からの活動の報告、または活動予定

1. 遠隔地からの参加者への旅費の補助
2. アンケートの集計・解析

詳細

1. は全ての決算が確定した後、旅費補助の総額及び旅費補助可能な範囲 (足きりライン) が決まる。9 月中に旅費の補助額を確定させて、早めに旅費の補助の仕事を終了させたい。

2. は夏の学校終了後からあまり時間が無かったのでまだアンケート集計が完了していない (簡単なまとめは 6.1 を参照)。できるだけ早くにアンケートの集計・解析を行ない yonupa-ml など公表したい。

---

<sup>†</sup>yshimono@particle.sci.hokudai.ac.jp

## 5 夏の学校運営に関する確認事項など

文責:下野 祐典 (北海道大学)

夏の学校の準備、運営中に迷った点や混乱した点がいくつかあった。また、2003年度夏の学校総会の様子を見ていても、重要なのだが全体に伝わっていない事項がいくつかあったように思える。議案書に載せる内容ではないかも知れないが、一度明文化しておいた方がよいと思われるのと、次年度以降の各役職校に確認しておいて欲しかったので、この一節を設けることにした。なお、これらはあくまでも確認であり、議決や承認などを取る必要が無いものである。

### 5.1 確認事項

1. 開催地の決定権は三者準備校にある
2. 参加費の決定権は三者準備校にある

#### 詳細

1. は2003年度夏の学校の三者総会で議論されたことである。夏の学校の開催地決定に当たって三者準備校は、前年度までのアンケート結果や、三者若手会員の意見、各役職校の意見などを考慮すべきである。しかし、三者準備校として割ける時間や動員する人数の都合などもある。最終的な決定権は三者準備校が持ち、三者総会等の議決・承認などが必要ないことをここで確認しておく。

なお、2003年度の開催地を決定する際、我々は三者総会で承認を受けることにした。その理由は、

- 開催地が大きく変更され、過去の夏の学校パンフレットや報告書にあった「甲信越地方で自然の中で行なわれる」という内容と合わなくなる
- 開催期間を例年の6泊7日から5泊6日に短縮した
- 開催時期を希望の多かった8月上旬から8月下旬に変更した
- 他の開催地(パノラマランド木島平)も押えることができ、反対意見が多かった場合は例年通りの開催も可能であった

ためである。

2. も三者準備校の権限であることを確認しておく。もちろん、事前にセンター校をはじめとする各役職校や、三者若手の会員の意見を聞く必要があるだろうが、夏の学校運営に大きく関わることであり、最後の決定権は三者準備校にある。ここ数年は参加費3,000円で落ち着いているが、今後会場のリース代が増えたり、現在補助をいただいている基研や素Gからの補助の打ち切りなども考えられる。このような夏の学校の運営が困難になるような場合は三者準備校の判断で参加費の値上げが可能であり、議決・承認は必要ないことを改めて確認する。

### 5.2 来年度以降の夏の学校に向けて

来年度以降の三者準備校などへの注意点をまとめておく。

1. 招待講演などのTalkerは講師と同じ扱いをする(今年度の場合)
2. 来年度以降の三者準備校は今年度までセクハラWGが行っていた活動の一部を代行する必要がある

3. パノラマランド木島平では借りられる備品の種類が限られる
4. 今後、オリンピックセンターを借りる場合「原子核三者若手」は登録済み団体として扱われる

## 詳細

1. 同じような立場で講演をしていただいた Talker の方の扱いがパートによって異なり、また三者準備校の中でも何度も変わることになってしまった。夏の学校では、夏の学校のポスターに名前が載っている講師（今年度は中村卓史氏（共通講義）ほか 8 名）の他に、研究会の時間に Review 講演などをしていただく招待講演者を呼ぶ場合がある。この招待講演者を呼ぶ、呼ばない、また何名呼ぶかなどは全てパート準備校の権限であるが、この招待講演者は原則として講師と同等に扱うこととなった。そのため、招待講演者は参加費を払う必要はない。また、旅費の補助が必要な場合は、全額受けられる。ただし、旅費の補助の手続きはセンター校の方で行なわれる。（これらは全て講師の方の扱いと同じである）なお、今年度はこのような扱いをしたが、来年度以降の取扱については来年度の三者準備校、センター校、各パート準備校の間で話し合い統一した取扱方を決めることが望ましい。また、その方が各役職校の負担も軽減されると思われる。

2. 今年度のセクハラ WG では来年度のセクハラ WG の会員を見つけることができなかった。また、今年度は相談室も相談箱も使われなかったようである。セクハラ WG 発足依頼の活動が実を結びセクハラに対する意識が三者若手の間に広がったためだと考えられる。来年度以降は相談室や相談箱を設置する必要性は無いと思われる。しかし、問題が起きた場合の対策や、被害者のケアについては今後も十分にされるべきである。今後は三者準備校が中心となってセクハラ対策などを行なって欲しい。また、今後はより女性が参加しやすい夏の学校作りを目指して欲しい。

3. これは今年度の三者準備校としての言葉ではなく、昨年度のパート準備校（北大・素粒子）の言葉として聞いていただきたい。当然のことではあるが、パノラマランド木島平はオリンピックセンターのような講義・講演を行なう施設ではないので講義用の機材に乏しい。昨年度は OHP とスクリーン、移動式の黒板は現地で借りられたが、それ以外の機材はほとんどパート準備校の自前であった。また、OHP の予備なども無いので、不測の事態に備えて予備の OHP を用意した方が良いかも知れない。移動式黒板があるからと言って、チョークがあると思ってもいけない。もちろん指示棒もない。場所以外は何もないと思って用意した方が良さそう。なお、木島平で不足した備品や宴会の飲食物を調達するには車で 15 分から 20 分ほどかかる麓の町まで行く必要がある。パート準備校は車を用意することは必須事項だろう。また、講師を囲む会などの宴会で飲食物が不足した場合も当然麓の町まで行く必要があるので、パート準備校の運転手は囲む会でも決して飲酒しないことをお勧めする。

4. 初めてオリンピックセンターを使うに当たっては、特定の政治団体や、宗教団体などと関わりが無いのか、本当に青少年団体なのか、などと言うチェックを受ける必要がある。この手続きは非常に面倒であり、かつ時間がかかる物だが今後はこの審査を受ける必要が無い。なお、今後三者準備校ではオリンピックセンターやその他の研修施設などを使った場合のマニュアルを作成する予定である。

## 6 アンケート結果・感想

文責:下野 祐典 (北海道大学)

## 6.1 アンケート 結果中間報告

アンケートはまだ集計途中であり、正式な解析結果などは出していないが、集計途中で気がついた点をまとめておく。来年度以降の三者準備校やパート準備校は、参考にして欲しい。(正式なアンケート結果は yonupa-ml などをつかって公表する)

1. 講義で OHP や PowerPoint などを使う人は、それらをプリントにして配布して欲しい
2. 物性系の講義が聞きたい
3. 開催日数は 4 泊 5 日を希望する人が多い
4. 開催時期は 8 月上旬を希望する人が多い
5. 会場についての意見
  - 宿泊費は安い
  - 食事代が高い
  - 懇親会の食事が少なかった
  - (特に M1 間の) 交流が持ち辛い
  - 外まで飲みに行くのが面倒
  - 朝風呂に入りたかった

## 6.2 感想

今回、慣例を無視して夏の学校を東京で開催することにした。

これは、年々参加の意義、目的が希薄になってきていた夏の学校に対する三者準備校の挑戦であった。それまで数年間使い続けてきた木島平という土地にマンネリを覚え、また冬季の使用を目的として建てられた施設であるだけに構造上の欠陥も気になっていた。しかし、それ以上に夏の学校というものを根本的に変えていく必要があると感じていた。特に、全国から M1 が集まって飲んで騒ぐだけの状態の夏の学校をなんとかしたいと思っていた。

そこで、夏の学校の本来の目的である講義・研究会を行なうのに適した場所で、M1 が半ば義務的に参加するだけでなく、M2 以上の学年が興味を持ったら気楽に参加できる交通の便の良い場所を探した。その結果が今回の東京 代々木のオリンピックセンターでの開催である。また、懇親会も例年であれば M1 懇親会であったものを、学年の隔たり無く全員が参加、交流できるようにあえて“M1”の文字を外した。

結果は大体我々の予想通りとなった。残念ながら高エネルギーパートは参加者減となったが、全体的には大幅増となった。特に、M2 やそれ以上の学年の参加者がかなり増加したようである。

もちろん(予想通りの)否定的な意見も多く聞かれる。特に飲み会の場が少なく M1 の間で交流できる機会が少なかった、というものである。場所的に飲み会を外部で行なわなければならなかったことと、期間を短縮したので夜に大勢で飲み会を開ける機会が少なかったのが一つの原因だと思われる。宿泊室での歓談も、アルコールが無いとはずまなかったのかも知れない。

プラスの面もマイナスの面もいろいろあったが、今年の夏の学校自体は今年の三者準備校が目指していたものに近かったと思う。今年の夏の学校が理想形だとは言わないが一つの可能性だったと思う。来年度以降の三者準備校やその他の役職校、そして三者若手の会員は今後もいろいろな夏の学校を模索し、三者若手にとって理想的な夏の学校をつくって欲しいと思う。

ところで、先の夏の学校三者総会で木島平の利点として「ルーズさ」という言葉が用いられた。確かに、パノラマランド木島平はオリンピックセンターなどと比べてかなりルーズに使用でき準備校の仕事をする上で、また飲み会などを開く上で非常に便利であると思う。

しかし、大抵の人は大丈夫だと思いがこの「ルーズさ」という言葉の意味を間違って解釈する人ができそうな気がするのであえてここで釘を刺しておく。木島平のルーズさというのは、貸切り状態になっているが故のルーズさではない。あくまで、パノラマランド木島平の御厚意、そしてパノラマランドが我々原子核三者若手という団体を信頼して下さっているが故のルーズさである。そして、ルーズであって許されるのは、部屋の使用などのことであり、各個人の行動についてなどではない。

昨年夏に、オリンピックセンターが取れなかった場合の保険として、パノラマランドとも交渉を進めていた。その時にパノラマランドの代表の方が、「毎年原子核三者若手がパノラマランドで夏の学校を開催してくれることを大変誇りに思っている」と言われていた。また、この夏の学校のためにパノラマランド側もいろいろな努力をし、年々改善して下さっていた。2000年にこの地で大問題を起こしておき、追い出されてもおかしくないような中での破格の厚遇である。これは、我々がもう2度と2000年度にあったような事件を起こさないと信頼して下さったことだと思われる。来年度夏の学校に参加される人は、このことを忘れないでいただきたい。また、来年度のM1にもこの点について必ず伝えておいて欲しいと思う。

今年度の夏の学校では問題らしい問題は起きなかった。その理由の一つとして、周りに人が多かったから、ということが言われている。しかし、周囲に人が居るか居ないかで行動が変わるようではその人の人格を疑わざるをえない。誰も見てなければ、何をやってもいいなどと考えている人は三者若手の会員にはいないと思うが、もしそのような子どもじみた考えをしている人がいるのであれば改めていただきたい。また、周りにそのような人が居るならば改めさせて欲しいと思う。

なお、パノラマランドは貸切りだと勘違いされている人が多いようだが、これはあくまでも宿泊施設に限ったことである。日中は施設内のプールなどを利用するために近辺のペンションなどから人が集まってくる。当然ながら、昨年までは異様な内容の注意書きを多くの人達に見られていたわけであり、少なからずパノラマランドには迷惑をかけていたと思われる。また、来年度は宿泊施設自体も貸切りではなくいくつかの団体がすでに予約をされていると聞いている。来年度の夏の学校参加者は今年以上に他団体の模範となるよう行動して欲しい。

## 7 2004年度夏の学校予算案 [三者センター校]

文責: 相阪 (東京大学)

2004年度三者センター校からは、収入予定の提示、予算案(概要及び詳細)の提示を行い、予算案の承認を求める。また、三者総会への出席費用を、どうしても研究室からの補助が出ない場合に、三者から出すか否かについて、総会による議決を求める。

### 7.1 収入予定

内訳	収入予定
基研(旅費)	500,000
基研(印刷費)	100,000
素G	450,000
参加費	900,000
計	1,950,000

## 7.2 支出予定: 概要

役職校	申請額
三者センター校	30,000
三者準備校	282,000
三者事務局	4,000
三者 ML・HP 校	0
素粒子論パート事務局	未申請 (昨年: 0)
素粒子論パート準備校	28,000
原子核パートセンター校	未申請 (昨年: 0)
原子核パート準備校	7,400
高エネルギーパート準備校	未申請 (昨年: 5,000)
セクハラ対策 WG	未申請 (昨年: 2,000)
運営 WG	未申請 (昨年: 0)
計	351,400

未申請の方々への呼びかけ: 特に, 高エネルギーパート準備校, 及びセクハラ対策 WG の方, お早めによりしくお願いいたします.

## 7.3 支出予定: 詳細

### 7.3.1 三者センター校 (東京大学)

内訳	申請額
振り込み手数料	3,000
旅費 (基研)	30,000
計	33,000

### 7.3.2 三者準備校 (金沢大学)

内訳	申請額
下見, 契約代	12,000
機材代	90,000
コピー代	110,000*
文具代	15,000
郵送料	25,000
払い出し手数料	30,000
計	282,000

\*例年より高めだが, 「研究室からの補助はあまり期待できないため」とのこと.

### 7.3.3 三者事務局 (東北大学)

内訳	申請額
コピー代	4,000
計	4,000

### 7.3.4 三者 ML・HP 管理校 (大阪市立大学)

内訳	申請額
計	0

### 7.3.5 素粒子論パート準備校 (広島大学)

内訳	申請額
録音関係費	23,000
通信費	2,000
研究会費	3,000
計	28,000

### 7.3.6 原子核パート準備校 (大阪大学)

内訳	申請額
文具代	1,400
コピー代	5,000
郵送費	1,000
計	7,400

## 7.4 緒連絡

口座開設のお願い: 三者センター校から、各役職校への振り込みは、郵便局 or 銀行口座を通じて行う。そこで、各役職校におかれましては、いずれかの口座を開設して頂くことになります。なお、郵便口座の方が振り込み手数料が(かなり)安いので、特に理由の無い限り、郵便局の口座を作成して下さい。

領収書はちゃんと取っておいて下さい: 宛名書は『原子核三者若手』、但書はできるだけ具体的にお願いいたします。

## 7.5 三者総会出席費用について

学会における三者総会出席費用が研究室からでない場合、三者から旅費を出すべきか否かについて総会の議決を求める: まず、(1) そもそもこの問題を今回の総会で決定して良いか否かの議決を行い、良いとの結論に至った場合、(2) 実際に補助して良いか否かの議決を行う。

### 7.5.1 議案の説明

三者若手の各役職校の代表者が(春・秋の学会における)三者総会に出席する必要があるが、学会発表は行わない場合、研究室からの旅費補助は出ない場合が多い。そのような場合、過去の慣例としては、自腹での出席となっていたようである。本年度役職校の一部の方から、「三者から補助は出るのか?」との問いを受けたが、三者センター校の一存では決めかねるので、総会の議決を求める。

ただし、総会と言っても(ほとんど)役職校の人しかいないので、まず、本件の議決は来年の夏の学校まで保留し、実際に旅費補助が減ずるところの夏の学会参加者の方々の意見を求めるべきか否かについて、総会の判断を仰ぐ。

出すべきという側の主張： 各役職校代表者は夏の学校を成功させるため、貴重な時間を割いて頑張っている訳で、その上金銭的負担までもを負わされるのはおかしい。夏の学校参加者の旅費負担を軽減する前に、準備する側の負担を減らすべきではないのか？

出すべきでないという側の主張： (1)「さて、三者から旅費を補助しましょう。」と決まった場合、果たして総額にしていくらの金額がかかるのかが、現時点では不明。(2) 基本的に、援助団体には『参加者の旅費補助』ということで援助申請を行っている。(3) 学会には、発表はせずとも、あくまで研究のため(情報収集)に行くのである。

## 8 2004年度三者準備校(金沢大学)

文責:梶山裕二(金沢大学)

### 8.1 2004年度夏の学校の開催地、開催時期についての報告

2004年度の夏の学校は

パノラマランド木島平で8月2日(月)～7日(土)の5泊6日

で開催します。

夏の総会では、「木島平では貸し切りになる」と申し上げましたが、そうではなくなりました。80名程の団体(家族連れらしい)が6階をフロア貸し切りするので、我々は2、4、5階のフロア貸し切りということになります。

今月(9月)末頃にも仮契約をかわしに現地へ行く予定です。